<発展的解散にむけて>



<川崎市>/<環境を考え行動する会>





■活動概要

私たちの子どもや孫の世代に少しでもよい環境を 残すため、できることから行動しようと、2007年8月 に発足した会です。翌年循生研に出会い、循生研 方式のダンボールコンポスト普及活動に邁進して 実践者は2,300名となりました。

14 年を経過し、2022 年 8 月の解散に向けて、模索しながら活動しています。

■拡充研修プロジェクトの発足

当会解散後の普及活動を少しでも引き継げるようにと、川崎市に働きかけて、今年度、川崎市生ごみリサイクルリーダー制度の中に「拡充研修プロジェクト」が立ち上がりました。講座の企画運営を行ったり、生ごみリサイクルリーダーの力量アップの研修などを行う組織で、川崎市の単なる下請けにならないよう、これからの方向性にかかっています。

■講座

新型コロナウイルス感染拡大のため、少ないながらも、生協・保育園・住民グループなどから講座依頼があり、対面の他、オンラインでも対応しました。



長い間、川崎市に 要望し続けていた 川崎市主催の実践 者向けスキルアップ 講座は、コロナ延期 を経てやっと開催。

拡充研修プロジェクトが初仕事として企画運営し、 対面とオンライン併用での講座が実現しました。

同様に対面とオンライン併用の川崎市入門講座は、受付開始から申込電話が鳴りっぱなしで即定員が埋まる人気ぶりでした。会場・オンラインとも参加者の熱意がすごく、会場参加者の約半数がコンポスト実践を始めました。

■小学校での取り組み

今年度はコロナにより子母ロ小4年生は中止でしたが、「対策を十分にした上で SDGsを盛り込んで」との依頼で、麻生小学校6年2組と平間小学校1,2年生が9月に1ヶ月半、今まで通りにはやれないながらも、試行錯誤しながら実施しました。

初めての低学 年には、パワーポ イントを直したり、 絵本「くさる」(福音 館書店)を利用し たりと授業を工夫



しました。低学年でもしっかり SDGs に向き合っていました。6 年生も SDGsへの熱意で積極的に取り組み、堆肥の活用までをみごとなパワーポイントにまとめるなど、すばらしい取り組みとなりました。

■家庭用生ごみ処理機等購入費助成制度の改定

長年、川崎市ではダンボールコンポストは助成の対象外でしたが、2020年度から対象になりました。更に21年10月「毎年4基まで購入金額の2分の1(限度額10,000円)助成」になりました。今までは2基まで一度だけだったのが一気に改善され、これも10年にわたる活動の成果です。

■ローカルフードサイクリング(株)との関わり

昨年に引き続き、LFCの「堆肥を送って野菜を育ててもらおうキャンペーン」では野菜だいすきファームと協力し、100人の堆肥を扱いました。また、川崎市・LFC(株・電通(株・トラストリッジ(株)が、国の事業として「eco-wa-ring かわさき」を立ち上げ。若い方々対象に展開しています。当会も応援しています。

■今後に向けて

キット作りや配達は、川崎南部の障がい者福祉施設「もえぎの丘」でも軌道に乗ってきました。北部の「しらかし園」と 2 か所で行っていき、販売は取扱所と代表宅で続けられるよう、検討中です。(2022.1)